

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	10
➤ 会議・イベント案内	11
➤ 書籍等の紹介	11
➤ 会員募集中	12

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

『アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2』の改善に向けた取組み

ARRN では、広く一般の方々の身近な川への関心を高め、新たな河川再生に向けた取組みに関わるきっかけを与え、現在取組む再生活動を後押しすることを目的に、「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」(以下、「本手引き」と記載します)を日本・中国・韓国の共同のもと作成しました。JRRN でも国内での普及に向けて、日本語版を作成し、JRRN ホームページで公開するとともに、印刷物の配布を行っています。

【本手引きの作成経緯】

平成 21 年 3 月 手引き ver.1 (日本語・英語) 発行
(<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/6>)
平成 23 年 1 月 手引き ver.1 別冊資料 (英語) 発行
(<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/22>)
平成 24 年 2 月 手引き ver.2 (日本語) 発行
平成 24 年 3 月 手引き ver.2 (英語) 発行
(<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/37>)

本手引きの改善に向けた今年度の取組みとして、JRRN では本手引きに関するアンケート調査を実施したいと考えています。アンケートの内容は現在検討中ですが、9月中旬を予定に、JRRN ホームページ上で無記名によるアンケート調査を行います。アンケートの結果は来月のニュースレターで皆様にご報告する予定です。

アンケート調査の詳細が決まり次第、ニュースメール等でご連絡させていただきます。

これまでの更新活動は、ARRN 技術委員会を通じた専門家による意見を中心に作業方針を決定していました。今回、手引き ver.2 を発行したことを節目として、手引きの利用対象者である皆様のご意見を確認、反映していくことが次の改善に向けての重要なプロセスであると考えました。皆様から本手引きの参考となる部分や情報が不足している部分等についてご意見をいただくことで、より実用的な手引きとするための改善すべき点を明らかにします。

また、現在河川再生に関する様々な参考書が出版され、ARRN 設立当初とは状況が変わってきましたので、皆様のご意見を踏まえつつ、本手引きが担うべき役割を改めて協議した上で、今後の活動の方向性を決めていきたいと考えています。

本手引きの印刷物の郵送配布は現在も受け付けておりますので、ご希望の方は JRRN 事務局までご連絡ください(送料はご負担いただきます)。皆様のご協力をお願い申し上げます。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)



本手引き ver.2 表紙

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

『第1回フィリピン国際河川サミット(2012.5.30-6.1)参加報告』公開のご案内

2012年5月30日(水)～6月1日(金)にかけて、フィリピン国イロイロ市で開催された「第1回フィリピン国際河川サミット」の参加報告(JRRN事務局員1名参加)が完成しました。

<参加報告目次>

1. 「フィリピン国際河川サミット」とは?
2. 開催地 Iloilo 市と現地河川の紹介
3. 主な行事の紹介
4. 展示ブースの紹介
5. 各種メディアを通じた行事広報紹介
6. 本サミットに参加しての感想と今後の取組み



■参加報告のダウンロードはこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/48>

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ(3)

『マレーシア河川フォーラム(2012.9.6)』のご案内

2012年9月6日(木)にマレーシアにて河川フォーラムが開催され、「日本の河川再生における住民参加」というタイトルで JRRN 会員・川崎秀明氏(前・マレーシア国 JICA 専門家、前・山口大学教授)が講演されることとなりました。

本フォーラム及び関連行事には川崎講師とともに JRRN 事務局員 1 名も同行し、日本が培った河川再生に関わる知見や ODA 等を通じたマレーシアへの協力

等を紹介するとともに、JRRN 及び ARRN の取組みを広報し、マレーシアの河川再生に関わる関係機関との連携構築が進むことを期待しています。

本フォーラムやマレーシアの河川再生事情については、10月を目標に会員皆様に改めてご報告する予定です。

(JRRN 事務局・和田彰)

マレーシア河川フォーラム (National River Forum 2012)

- テーマ: 持続的な河川管理 (Sustainable River Management)
- 開催日: 2012年9月6日(木)
- 開催地: マレーシア国プトラジャヤ (Dewan Sri Siantan in Putrajaya, Malaysia)
- 主催者: GAB財団 (GAB Foundation)
GAB Foundation: Guinness Anchor Berhad Foundation (www.gabfoundation.org/)
- 運営事務局 (共催組織): NRE, JPS Malaysia, GEC
NRE: Ministry of Natural Resource & Environment (<http://www.doe.gov.my/portal/>)
JPS Malaysia: Department Of Irrigation And Drainage, Ministry of Natural Resources & Environment (<http://www.water.gov.my/>)
GEC: Global Environment Centre (<http://www.gecnet.info/>)

<プログラム概要>

- ・講演1: マレーシア・Way川における住民参加型河川再生の取組
- ・講演2: マレーシアにおける河川管理
- ・講演3: シンガポール・カラン流域における汚染対策とモニタリング
- ・講演4: イギリス・テムズ川における活力ある河川への取組み
- ・講演5: 日本の河川再生における住民参加
- ・講演6: オーストラリア・クイーンズランド州での河川健全化と流域管理
- ・講演7: ベトナムにおけるメコン川での洪水との共生



■行事案内パンフレット (英語):

http://www.gec.org.my/aeimages//File/National_River_Forum - Brochure ENG_FINAL - 10_Aug_2012.pdf



会員寄稿記事(1)

川系男子の『川と人』めぐり No. 5 ～夏休み川めぐりランキング～

坂本貴啓 (筑波大学大学院 生命環境科学研究科 博士前期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ)

『川と人』めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きではない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

1. 川系男子のなつやすみ

ニイニイゼミの鳴き声に始まった夏休み。夏真っ盛りの頃になると、アブラゼミやミンミンゼミが競うように鳴いていたのに、お盆を過ぎた頃からいつの間にかツクツクホウシに変わっていた。

夏の終わりはいつも切ない。小学生の頃からお盆を過ぎると「あと〇日・・・」と夏休みを数える癖がある。昨年 M2 の先輩に「先輩は来年社会人になるから、最後の夏休みですね！しかも今日は最後の日ですね！」と笑顔で言ったのに、寂しくなるからやめろと怒られてしまった。今年は先輩の気持ちがよく分かる。

ここ数年の夏休みを振り返ると、やはり川にばかり行っている記憶がある。なので、今年も夏休みの川の記憶を思い出してみたいと思う。記憶に残る川をランキング形式で紹介していくが、あくまで便宜的であり、どの川も全ていい思い出の川。なつやすみの川めぐりを絵日記帳とともに振り返る。

表 1 川系男子の夏休みの川巡りの記録

訪問日	河川名	所在地	内容
7月6日	落合川	東京都東久留米市	湧水由来の水質良好な都市河川を見学
7月11日	隅田川	東京都中央区	隅田川のリアーフロントを散策
7月13日	隅田川	東京都中央区	日の出棧橋～浅草まで遊覧船で見学
7月14日 ～16日	木曾三川	岐阜県、愛知県	木曾川推計(特に飛騨川、木曾川、長良川をめぐる)
7月18日 ～24日	遠賀川	福岡県北九州市	実家に帰省
7月19日	花月川 山国川	大分県	今月二度に渡る北部九州豪雨の現場視察
7月20日	大分川 大野川 番匠川	大分県	大分の一級河川を部分的に見学
7月23日	那珂川	福岡県福岡市	水上バスで都市空間の中の河川景観を見学
7月27日 ～29日	諏訪湖	長野県下諏訪町	諏訪湖16kmを歩いて一周
8月3日	北浦	茨城県鹿嶋市	北浦流入河川10川で流量観測
8月4日 ～5日	依田川	長野県上田市	信州爆水RUNの鉄人コースに参加
8月13日	日本橋川	東京都中央区	高速高架下の日本橋川を遊覧
8月19日 ～24日	済州島の川	韓国済州島	火山島の水無川を見学
8月27日 ～30日	吉野川 那賀川	徳島県	ゼミ合宿で12名で川めぐり
8月30日 ～9月2日	仁淀川 物部川	高知県	夏休み最後を一人旅

【10位】

北浦

同じ専攻の友人が霞ヶ浦で流域の水収支に関する研究をしている関係で、友人に流量観測の手伝いを頼まれたので、北浦の流入河川 10 本をめぐってきた。北から順に、境川、大洋川、白鳥川、上幡木志崎境川、沼里川、石川、居合排水路、中里川、水神川、流川の計 10 河川だ。流入河川の河口付近で流量観測をするのだが、川幅は 4-5m 程度の小規模な河川で、川の中に入って十分観測できる。また、小さな川でも一本一本に名前がついていて、水神川なんていう名前は誰が、どういう由来に基づいて命名したのかとても気になる。この日は気温が 30℃ 以上あり、特に暑かったので、川に浸って流量を計っている時至福な一時だった。川底をよくみると、ヌマチチブやスジエビ、ザリガニ、ヌマムツなどが行き来している。観測の合間、大きなザリガニを捕まえ、青い空に高くかざし、遊んでいた。



友人の流量観測の手伝いで、北浦の流入河川に。この日もうだるような暑さで、川の中に入っている時だけが幸せだ。

川の中をみると、ザリガニが闊歩していたので、捕まえた。空に掲げると、赤と青の対比が綺麗だ。ザリガニは背中を掴まれ、はさみを振り上げ怒っている。水の中に戻すとあっという間に後ろざさりして水草の中に消えた。ギャングは臆病だった。

友人の流量観測の手伝いで、北浦の流入河川に。この日もうだるような暑さで、川の中に入っている時だけが幸せだ。

川の中をみると、ザリガニが闊歩していたので、捕まえた。空に掲げると、赤と青の対比が綺麗だ。ザリガニは背中を掴まれ、はさみを振り上げ怒っている。水の中に戻すとあっという間に後ろざさりして水草の中に消えた。ギャングは臆病だった。

温度計: 28.5℃

湿度計: 75%

気圧計: 1013hPa

時刻: 8月3日 午後 1時



【9位】

番匠川

大分には計5本の一級河川がある。筑後川，山国川，大分川，大野川，番匠川だ。その中で県の最も南にあるのが番匠川。どちらかというと全国に109ある一級水系の中でもマイナーなほうだろう。番匠川を見ようと大分県を南下していたが，大雨が降り出し，これ以上進むことは難しいと判断し，道の駅で休憩をとることに。

佐伯市の国道10号線沿いにある道の駅やよい。ここには番匠おさかな館という淡水魚の水族館が併設されている。館内には数多くの水槽や展示があり，番匠川のことや魚のことが分かりやすく解説されている。特に，外の川の中の様子を館内のガラス面からみることができる大パノラマ水槽は見応えがある。オイカワやカワムツ，アユが水の中を軽快に泳いでいる姿をみると，こちらまで涼しくなれる。

平成13年に開設されてこのおさかな館だが，道の駅に川の施設をつくるとは当時としてはかなり斬新な発想だったと思う。館内には学芸員の方が2名おり，明日からの企画展の準備でお忙しいにも関わらず，番匠川の解説をしてくださった。皆さんもお近くに行った際にはぜひ番匠川へ。

<http://rs-yayoi.com/osakanakan/index/index.htm> (番匠おさかな館 HP)



大分県佐伯市の道の駅やよいにある『番匠おさかな館』へ行った。館内には番匠川に棲む魚が多く飼育されていて、熱帯の部屋には世界の魚もいる。川の断面がみえる大きな水槽では、アユやオイカワ、カワムツなどの魚が気持ちよさそうに泳いでいる。手入れもよく行き届いていて申し分ない施設だ。

普通の水族館はよくあるが、川の水族館はめずらしい。

おきたて 日 7 月 15 日 天気 あめ

【8位】

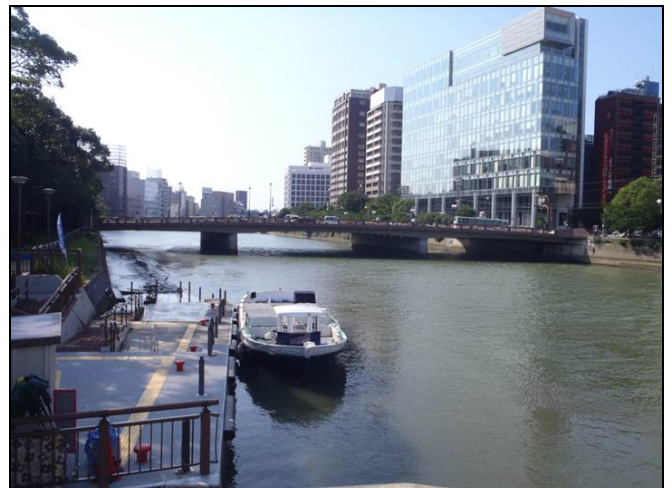
那珂川

福岡に帰省した際、福岡市の天神に遊びに行った際に街の中を流れる那珂川で水上バスに乗った。天神の福博であい橋から那珂川を下り、博多湾にでて、ベイサイドプレイスまで行くルートだ。わずか500円と料金もリーズナブル。観光にも交通手段としてもおすすめだ。

ビルに囲まれた街の中であるが、橋にはアオサギがとまり、水面から時々ボラが跳ね、干潮時にはカニが顔を出すなど常に飽きない。川沿いには中洲の屋台街やリバーテラスカフェが軒を連ねていて、街の中の行きたいところを川の中から再発見できる。下るにつれて、潮の香りが漂ってきた。河口付近になると、赤い博多ポートタワーが見えてきた。博多湾にでると、コンテナ港に行き交う船、遠くには金印が発見された志賀島がみえる。船頭のお兄さんのトークを聞きながら下っているとあっという間にベイサイドプレイスに。街の中の20分の水上散歩。川系男子の諸君、彼女と一緒に川系デートにいかが？

<http://yokanavi.com/waterbus/index.html>

(那珂川水上バス HP)



福岡市の街中で水上バスを運行しているのを見て乗船。那珂川を下り、橋の下を何本もくぐり、博多湾へ。街の中でもアオサギやカニ、ボラが見られる那珂川。ベイサイドプレイスまで20分の船旅だったが飽きないコースで楽しい。船頭のお兄さん曰く、夜はナイトクルージングを行っているそうなので今度乗ってみよう。川系男子がおすすめする観光・デートスポット。

おきたて 月 7 月 23 日 天気 快晴

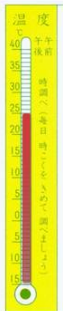
【7位】

落合川

リバフロ（JRRN）にインターンシップで通って川づくりの事例収集をしている時、職員の方から住宅街の中だけど、いい川があるということで、落合川を訪ねた。

東京都東久留米市を流れる落合川は豊富に湧水が湧き出ている川で、ホトケドジョウも生息するほどの水質。都内にこんな美しい川があったとは。氷川神社付近の台地の切れ目からは南沢湧水群と呼ばれる湧水が染み出していて、落合川の安定した水量と水質を支えている。

落合川をずっと下って行くと、川の中で遊ぶ子供達の姿。自転車でちょっと遊びに来ることができる環境がそばにあり、本当にうらやましい。そしてなにより楽しそうだ。川沿いを行き交う人が子どもに声をかける光景もあり、都会では見られないコミュニティが川をきっかけとして生まれていた。落合川育ちの子供達はきっとサケのようにいつか大海原に下り、活躍してくれるに違いない



東久留米市落合川を見に来た、住宅地の中を流れる川だけど、湧水が湧いていて、水質は良い、川沿いを歩いていると子供達が川で泳いで遊んでいた、一緒に川歩きをしていた人が一言、「ここで川遊びをした子どもとそうでない子が川づくりをしたら、きっと違う川づくりをするだろうね。」きつとそうであってほしい。



【6位】

隅田川

インターンシップの昼休みに数人で近くの隅田川へ。隅田川は江戸期からの長い歴史がある。また浮世絵と現在の場所を比べると面影がわかるのが驚き。電車からみたらただの都市河川だが、歩いて川沿いでおにぎりを食べてみるといい川だなあと実感。夏服スーツ姿の大人が5人で川を見ながらおにぎりを食べている光景は傍からみたらさぞ、滑稽だったであろうが、オフィス街の昼休みにこんな光景がもっと広がってほしい。

また、隅田川でも遊覧船がでていと教えてもらい、日の出桟橋ー浅草間の船に乗った。隅田川の川風が夕涼みに最高だ。巨大都市東京を川の中から見つめたのははじめてで、船が動くたびにビルが迫ってくるようで迫力があつた。

すっかり船が好きになり、別の機会には日本橋→亀島川→隅田川→日本橋川の夜のクルーズも体験した。船での川めぐり、一時はまりそうだ。

<http://www.edo-tokyo.info/ship/summer.html>

(江戸東京再発見コンソーシアム HP)

<http://www.suijobus.co.jp/cruise/index.html>

(TOKYO CRUISE HP)



日の出桟橋から浅草までの観光定期船に乗った。船の上からの夕涼み。11日にみた隅田川の同じ場所を船の上から見ると、ビルが迫ってくるようで、また迫力が違う。水をかき分けて進む船のしぶきが時々風につけて頬をなでる。熱を帯びたビルばかりの東京でも、ビル間を流れる川だけは涼しい。隅田川からみる夕日がきれいだった。



【5 位】

山国川・花月川

8月号にも掲載したが、7月3日と7月14日の梅雨前線の停滞により、北部九州において豪雨水害が発生し、山国川流域と筑後川流域の上流部（花月川）において甚大な被害が発生した。3日、花月川は3時間に172mmを記録し、観測史上第1位を記録した。また、3日、山国川の耶馬溪観測所においても1時間に約110mmと観測史上第1位を記録した。どうしても水害の爪痕を直後にみておきたかったので山国川と花月川を訪ね、各所で地元の人に被害状況の話を聞いた。

川沿いを下って行くと被災した堤防、道路はじめ、民家も大きな被害を受けていた。証言によると、数時間のうちに川が変貌し、水が溢れてきたという。90代のおばさんの話では昭和28年水害に匹敵するものだったという。酒屋さんの話では、1階は全て水に浸かり、商品の酒瓶は全滅。被災直後には各地から多くの災害復旧ボランティアの方々が訪れ、一人暮らしのお年寄りの家の泥のかき出しなどに当たっていた。

普段は風光明媚な耶馬溪が数時間のうちに様変わりしてしまった。川は美しく、楽しい場所だけでなく、時に恐ろしい場所でもあることを改めて実感させてくれる水害現場であった。



7月3日と7月14日の記録的な豪雨で被災した山国川と花月川を訪ねた。山国川に行くど橋が崩落していたり、家が破壊されていたりして、風光明媚な耶馬溪は一変してしまっていた。近くのおばあちゃんに話を聞くと、「あんを恐ろしい水害は生きてきて初めて。昭和28年にもあったけど、もっとおそろしか。」自然の力の前で人間は本当に無力であると思う。

気温	25.0℃
湿度	75%
気圧	1013.0hPa
風速	1.0m/s
日射量	0.0kWh/m²

おきまじく 金 7 月 20 日 天気 曇り

【4 位】

諏訪湖

私の研究調査のため、諏訪湖流域を訪ねた。河川で活動する市民団体が環境改善にどの程度パワー（量的に）もっているかを把握するため、今回はその中の一つ、諏訪湖流域の市民団体の方にお話を聞き、人的なエネルギーがどの程度あるかを探った。

まずは活動場所の諏訪湖を見た方がいいということで、諏訪湖を船で案内していただいた。諏訪湖の流域全般のお話は信州大学名誉教授の沖野外輝夫先生が船上でおこなって下さった。諏訪湖流域は下水道普及率が90%以上になり、湖沼の水質が格段によくなったという。沖野先生曰く、普及率が90%を越えると閾值的に水質はよくなるという。他の市町村の方がどうやったら諏訪湖のように水質がよくなるか尋ねてくるそうだが、「90%以上を目指すのが一番の近道。」だそうだ。今年は水温が上がり、例年以上にアオコが発生していたものの、市民団体の方達の諏訪湖を綺麗にしたいという想いは強い。

今回話を聞いた下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会（通称；湖浄連）は60以上の団体が合同で活動する組織で、定期的に諏訪湖の湖岸清掃やアレチウリ除去、水環境調査などを行っている。ヒアリングをすることで、諏訪湖流域の市民活動の活動力の高さが定量的数値のみだけでなく実感としても感じられた。



調査で諏訪湖を訪れた。湖岸線まで歩いているとじりじりと靴の裏まで熱が伝わってくる。沖野先生と湖浄連の人の案内で、諏訪湖を船で周った。湖面から綺麗な街並みが見えるが水の色が青い。今年は特に暑かったようだがアオコが多く発生したらしい。しかし諏訪湖は以前に比べ格段に綺麗になっているらしい。今も市民による湖岸清掃は続いている。継続は力なり！

気温	26.0℃
湿度	70%
気圧	1013.0hPa
風速	1.0m/s
日射量	0.0kWh/m²

おきまじく 土 7 月 28 日 天気 晴

【3位】

木曾三川

友人の実家がある岐阜県下呂市に遊びに行くことになり、木曾三川を巡った。あいにくの雨で木曾川流域の水位は高くなって河原に降りることができなかつたり土砂災害の警戒で道の通行規制がかかっていたりなど制約が多かったので、下呂市を流れる飛騨川を中心に巡った。一か所、飛騨川の支流の山之口川で河原に降りることができ、川を眺めた。深い川底まで濁りのない透明度で今までみた川の中でも相当な美しさだった。

木曾三川は山間部ということもあり、ダムが多い。今回巡った箇所は飛騨川、大ヶ洞ダム、山之口川、馬瀬川、岩屋ダム、郡上八幡の宗祇水、長良川、阿木川ダム、岩村ダム、長良川河口堰などで、雨で当初の予定より訪問箇所は少なくなったものの、多くの見どころがあり、とても3日で周りきれものではない。

雨で川は荒れていたものの、河岸段丘上に立ち込める雲や川を覆い尽くす川霧は幻想的であり、木曾川が激しく躍動しているのを感じるには十分な風景だった。



温度計
湿度計
気圧計
気象情報

岐阜の飛騨川流域に実家のある友人宅を訪ね、木曾三川を川めぐり。天気はあいにくの雨で、あたりはどしゃぶり。しかし、雨もいものので、山から立ち込めてくる川霧も幻想的で美しい。

山之口川の水は泳ぐには冷たかったのですが、河原でスロープとライフジャケットを使って救命訓練。今度は晴れた日に来て泳ぎたい。

おきだす
日 7 月 15 日
天気 ああ
おきだす

【2位】

依田川

長野県上田市丸子において信州爆水 RUN が開催された。この行事は川の中を走るマラソン行事で、正式なマラソン競技としても認定されている。参加者も計 1266 人と多い。今回、研究室の先生はじめ、4 人の猛者が依田川に行くことになり、3 人が鉄人コースにエントリーした（1 人はサポーター参加）川を下り、折り返して上り、また下る 8 km のコースだ。河道内なら川の中でも、陸でもどこでも走っていることになっている。

ピストルの音とともにみんな一斉に飛び出し、川を目指す。河原へ降りると、草藪をかき分けて進む者、岩場をよじ登る者、川の中を泳ぐ者など様々だ。私は、動画や写真を取りながら、ライフジャケットで川の中をぶかぶか浮きながら下った。これが意外と楽で早い。川の流れを十分に楽しめる。上流の上りでは、先生が俊足さを発揮されており、挑戦者が苦戦して漕ぎついているところをすいすいと進んでいる。（さすがいつも、急流で現地観測されていることだけあって、河床の構造をよく把握されている。）

結局私のタイムは 1 時間 42 分 47 秒と 81 位だったが、なにより川の中をみんなで思いっきり走って泳ぐというこの行事が楽しかった。都合さえつければ来年も参加をしたい。



温度計
湿度計
気圧計
気象情報

長野県上田市で開かれた『信州爆水 RUN』という行事に参加した。今日は絶好の爆水日和。みんな一斉に川の中を走る。時には羊藪をかき分けて走ることも。

僕はライフジャケット作戦で川をぶかぶか浮いて楽に下る。横で一生懸命川の中を走っている人達が「あれいいな」というのが聞こえる。今年も 81 位だったので、来年はもっと順位をあげられるように頑張ろう！

おきだす
日 8 月 5 日
天気 ばれ
おきだす

【1位】 那賀川

毎年、白川研究室の『川と人』ゼミではゼミ合宿が3泊4日で開催される。

2006年から四万十川、釧路川、熊野川、江の川、米代川、天塩川と続き、今年は徳島県的那賀川である。この合宿は1学期から全体ゼミで毎回、川調べをして行われる。時には模型作り、時には文献紹介、時には模造紙発表などあらゆる方法を駆使してその流域を調べる。調べた内容は全てゼミ合宿のしおりに圧縮して当日のアイテムとして持って行く。

今年は吉野川の第十堰で集合してから、那賀川の源流を登り、流域界を感じ、ダムをめぐり、下流に下り、河口で解散する。(毎年この流れは踏襲されている。)

現在、ゼミ合宿出発前夜に執筆しているため、今年も愉快的『川と人』ゼミの仲間と流域を周る中で素晴らしい出会いや発見があることを祈って、これを今年の夏の川めぐりの1位としたい。

明日から30日までゼミ合宿をし、その後2日まで、一人旅で高知の仁淀川、物部川を巡ってこようと思う。学生最後の夏休みを迎えるには素晴らしい場所だ。



今年もこの時期がやってきた。今日から3泊4日のゼミ合宿。吉野川の第十堰に集合し、流域界を越えて那賀川の源流『ジロウギユウ』を目指し、ダムを巡り、川遊びをし、そして河口で解散。今年はどうなるストーリーが待っているのか楽しみだ。

【番外編】

濟州島の川

国際水工学会のアジア・太平洋大会で発表のため、^{ちよじゅうとう}韓国の濟州島を訪問した。空き時間に観光をしたが、どこに行ってもやはり気になるのは川。濟州島の川はどんなものなのか川を覗き込むが、驚くことにどの川にも水が一滴もない。

濟州島は火山島であるため、水がすぐに地下に浸透してしまい、雨が降っても表流水はすぐに海まで流れてしまう。タクシーの運転手さん曰く、そのため、稲作はできず、畑作の作物をつくるのにも、当時は水を汲みにいかねばならず苦勞したそう。川に水がない川もまた一つの川の形なのであろう。



学会発表のために韓国濟州島へやってきた。どこに行っても水に合るのが川のこと。濟州島の川は一体どんな川なんだろとか行ってみるがまったく水が流れていない。あんな川がこんな感じ。地元の人があるには火山だから水はけがよくすぐに流れてしまおうらしく、雨が降った時しか川に水が流れるらしい。あのおじさんらにとっては川よりも海が遊び場だったよう。

川系男子の夏休みの川めぐりは無事終了。私はこの夏の川での出来事を決して忘れないだろう。あ、夏休みの宿題(やるべき研究課題)やるのを忘れていた・・・そんな夏の終わり。



【筆者について】

坂本 貴啓 (さかもと たかあき)

1987年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC(青少年博物学会)、大学時代ではJOC(Joint of College)を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。

筑波大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻 博士前期課程在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『郊外の湖沼・河川流域における社会変化に伴う流域管理のあり方に関して』と題し、流域の水質・水量の将来予測や河川市民団体の特性について研究中。最近のお気に入りには夕涼み船に乗って川巡りをする。

※本記事で紹介した「絵日記」のオリジナル版は以下でご覧いただけます。(PDF 2.3MB)

http://jp.a-rr.net/jp/activity/newsletter/files/2012/08/Newsletter_vol63_201209annex.pdf

水辺からのメッセージ No.40

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

用水が活かされるまち：
イザベラ・バードも訪れた羽州街道のまちには今も水網水路が流れる



撮影：2012年8月（山形県・金山町大堰公園）

まちの中心部を流れる用水を活かした大堰公園は美しい町の象徴的存在ですが、この地を130年前に英国の女性旅行家イザベラ・バードが訪れ、ピラミッド型の丘陵に強い印象をもったようです。

町には多くの街並み案内人がボランティアガイドとして活躍しています。まちの中心を流れる用水は水網状に分かれ、融雪溝として今でも活用され、流れは家々の庭まで引き込まれています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

【JRRN 会員からの提供情報】

■「第20回リバーフロント研究所報告会」(9/14開催)

公益財団法人リバーフロント研究所からの「第20回リバーフロント研究所報告会」のご案内です。

時間	内容
13:00-13:05	開会の挨拶
13:10-14:10	基調講演『川の「場」の力～水環境と社会・文明・風土』 (筑波大学 白川直樹 准教授)
14:20-17:25	研究報告(7テーマ)
17:25-17:30	閉会の挨拶

- 日時：2012年9月14日(金)
13:00 - 17:30
- 会場：月島社会教育会館(東京都)
- 主催：(公財)リバーフロント研究所

プログラム

- 13:00~13:05 開会の挨拶
- 13:10~14:10 基調講演『川の「場」の力～水環境と社会・文明・風土』
(筑波大学 白川直樹 准教授)
- 14:20~17:25 研究報告(7テーマ)
- 17:25~17:30 閉会の挨拶

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/759.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「河川文化を語る会」

JRRN 団体会員である公益社団法人日本河川協会から河川文化を語る会のご案内です。

【第171回】

- ◆テーマ：「防災社会の再構築に向けて～東日本大震災の教訓と今後の地震防災対策」
- ◆講師：濱田政則(はまだ まさのり)氏(早稲田大学理工学術院 社会環境工学科 教授)
- ◆日時：2012年9月10日(月) 18:00~20:00
- ◆場所：厚生会館(全国土木建築健保)(東京都千代田区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/700.html>

【第172回】

- ◆テーマ：「平成16年の豪雨水害後に講じた対策と平成23年豪雨における成果」
- ◆講師：久住時男(くすみ ときお)氏(新潟県見附市長)
- ◆日時：2012年10月25日(木) 18:00~20:00
- ◆場所：厚生会館(全国土木建築健保)(東京都千代田区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/755.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「米国ニューヨーク州ハドソン川でのPCBの除去の現状報告」に関する報道記事紹介

JRRN 個人会員の(株)日建技術コンサルタント・益倉克成様より、「米国ニューヨーク州ハドソン川でのPCBの除去の現状報告」に関する報道記事をご紹介頂きました。また、本報道記事の日本語仮訳資料も合わせてご提供頂いております。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/764.html>

◆日本語仮訳資料は以下参照(PDF271KB)

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/files/2012/08/%EF%BD%8E13_0030document.pdf

【海外からの提供情報】

■「ECRR(ヨーロッパ河川再生センター)の最新ニュースレター(8月特別版)」ご紹介

ECRR(ヨーロッパ河川再生センター)の最新ニュースレター(2012年8月号)「ECRRを構成する各国内ネットワーク紹介特集号」をECRR事務局より送付頂きました。



アジアの、また日本の河川再生に向けた仕組みを考える上でも役立つ知見が濃縮されています。

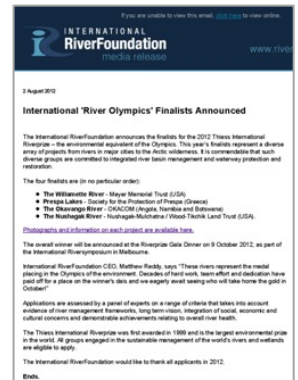
◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/751.html>

【海外からの提供情報】

■「第15回国際河川シンポジウムでの国際河川賞の最終選考4河川」公表

本年度で第15回目となる国際河川シンポジウム(International Riversymposium)が2012年10月中旬にオーストラリア・メルボルンで開催されますが、この行事の中で毎年選定される「国際河川賞(Thiess International Riverprize)の最終選考4河川が主催者より発表されました。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/747.html>

会議・イベント案内（2012年9月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

■JRRN ワークショップ『市民が主体の河川環境の見かた・調べかた～英国「PRAGMO」に学ぶ～』（仮題）

英国河川再生センター(RRC)発行の河川モニタリング手引き「PRAGMO」の日本語翻訳版発刊を記念し、RRC 幹部及び日本国内で河川環境モニタリング活動に取り組む市民団体を講師に招き、PRAGMO を活用した河川モニタリングに関わるワークショップを開催致します。本行事の詳細が決まり次第、JRRN ウェブサイト及びニュースレター等を通じてご案内いたします。

○開催日： 2012年12月1日（土）午後 ○開催場所： 東京都内
※本行事は、（財）河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けています。

（河川再生に関する主なイベント）

■第171回 河川文化を語る会『防災社会の再構築に向けて～東日本大震災の教訓と今後の地震防災対策』（P10参照）

○日時：2012年9月10日（月） 18:00～20:00
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1501.html>

■第20回「リバーフロント研究所報告会」

○日時：2012年9月14日（金） 13:00 - 17:30
(P10参照)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1528.html>

■第12回川に学ぶ体験活動全国大会 in みちのく

○日時：2012年9月15日（土）～17日（月）
○主催：第12回川に学ぶ体験活動全国大会 in みちのく実行委員会
○場所：岩手大学（岩手県盛岡市）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1522.html>

■第5回 いい川・いい川づくりワークショップ

○日時：2012年9月22日（土）～9月23日（日）
○主催：いい川・いい川づくり実行委員会
○場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1446.html>

■神田川サミット 2012 on ship

○日時：2012年9月29日（土）
○主催：神田川ネットワーク
○場所：両国船着場集合
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1512.html>

■第172回 河川文化を語る会『平成16年の豪雨水害後に講じた対策と平成23年豪雨における成果』（P10参照）

○日時：2012年10月25日（木） 18:00～20:00
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1526.html>

書籍等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2 (2012.2 発刊)

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・監修：ARRN 技術委員会
- ・編集：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・価格：無料

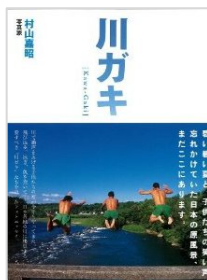
※本冊子の入手方法

本手引きをご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。なお、JRRN 会員限定サービスとさせていただきます、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録後にお申込下さい。
info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862



■ 川ガキ(2012.7 発刊)

- ・著者：村山嘉昭
- ・出版社：飛鳥新社
- ・価格：¥1,575（税込）
- ・ISBN-13: 978-4864101813



本書は、日本の原風景とも言える日本各地の川に棲息する“川ガキ”たちを追ったフォトエッセイ集です。

なお、JRRN ニュースレター2011年2月号内で、著者の村山様より頂戴したメッセージを紹介しています。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/newsletter/90>

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

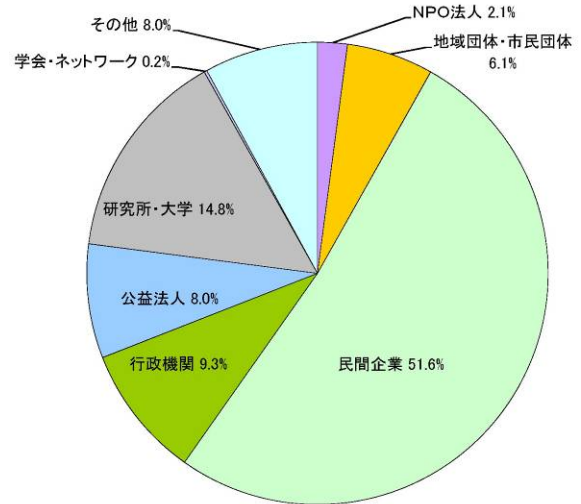
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2012年8月31日時点の個人会員構成
(個人会員数：568名、団体会員数：46団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
 公益財団法人リバーフロント研究所 内
 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
 Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRNは、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

